

| | |
|------|---|
| 開催地名 | 滋賀県 野洲市 |
| 開催日時 | 令和6年9月21日(土)10:00~11:30 |
| 開催場所 | 野洲文化小劇場 |
| 語り部 | 橋本 芳和(大阪府堺市) |
| 参加者 | 野洲市自治連合会 ほか一般参加 93人 |
| 開催経緯 | これまで、自治会が共助として取り組む自主防災組織の活動を進めていく中で、近所付き合いの希薄化や自治会加入の減少など、地域のつながりが薄くなっていることが課題でした。災害時に共助の重要性は承知しているが、地域コミュニティの力を高め、災害時に共助の防災力を高める具体的な取り組みについて、先進的な活動をしている自主防災組織から事例を参考に学び、地域コミュニティ、地域の防災力の向上を目指す研修が必要だった。 |
| 内容 | <p>■ はじめに</p> <p>講演者の橋本芳和氏は、大阪府堺市の北花田グランアヴェニュー(GA)防災会の活動に長年携わり、マンション居住者の防災意識向上と地域防災の強化に尽力してきた。今回の講演では、マンション防災の実践例を通じて、地域特性に応じた防災対策の重要性や、災害時における住民の主体的な行動の必要性について語った。</p> <p>北花田グランアヴェニューは、大阪市との境界に位置し、全6棟・総戸数715戸・約1750人の住民が暮らす大規模分譲マンションである。周囲には大和川や西除川が流れ、南海トラフ地震発生時には地震被害に加え、河川の氾濫による水害のリスクも考えられる。このため、防災会では地震・水害の両面を想定した防災対策を進めている。また、管理防災センターが24時間体制で運営されており、災害時には防災拠点として活用されるほか、サイネージを活用した情報発信が行われる体制が整えられている。</p> <p>■ GA防災会の設立と自治会との連携</p> <p>北花田グランアヴェニューでは、マンション独自の防災組織としてGA防災会が設立されている。堺市の自治会制度では、新浅香山小学校区自治連合会が存在し、地域の防災活動を統括しているが、堺市北区の方針として、マンション住民の避難所利用は限定的であることが明示されている。そのため、GA防災会は「自分たちの身は自分たちで守る」という理念のもと、自主的な防災活動を推進している。</p> <p>GA防災会の取り組みは、主に地震と水害を想定し、マンション住民が災害時に適切に対応できる体制を築くことに重点を置いている。自治会や地域防災組織と連携しつつも、マンションという居住環境に即した独自の防災対策を実施している点が特徴的である。</p> <p>また、堺市内には複数の自治会が存在し、それぞれ異なる災害リスクを抱えている。地域の防災対策を考える上では、世帯構成や建築環境などの地域特性を把握することが不可欠である。GA防災会では、マンション特有の課題に対応しつつ、住民の防災意識を高めるための情報提供や訓練の実施に注力している。</p> <p>■ GA防災会の組織構成と活動内容</p> <p>GA防災会は、約11年前に設立され、自治会とは別組織として運営されている。マンションの場合、備品の購入や設備管理は管理組合が担っているため、防災活動は自治会とは別に行う必要がある。防災会は管理組合の下部組織として機能しており、自治会の関係者もメンバーとして参加しながら、災害時の住民対応を行う体制が整えられている。</p> <p>防災会は、住民715世帯を5つの班に分け、各班が防災活動に関与する仕組みを整えている。年に一度の防災訓練を実施し、各班ごとに集まりながら防災対応の確認を行っている。また、組織の維持と発展のため、次の5つの方針に基づいて活動を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.棟ごとのコミュニケーション強化 2.災害発生時の対策と支部活動の整備 3.備品備蓄の推進と定期的なメンテナンス 4.住民の防災意識の向上 5.自治会および地域防災組織との連携強化 <p>また、毎月の委員会開催や「防災活動ニュース」の発行、防災力アンケートの実施、マニュアルの見直し、ホームページのメンテナンス、防災展示会の実施など、さまざまな取り組みを継続的に</p> |

行っている。避難訓練については、防火訓練と統合し、年に一度の「防火防災訓練」として実施し、昨年は170人が参加した。

■ 防災意識向上のための取り組み

マンション居住者の防災意識を高めるため、GA防災会では次のような具体的な取り組みを実施している。

・棟別懇談会の開催

マンションでは、隣人との交流が希薄になりがちであるため、棟ごとに懇談会を開き、顔合わせや情報交換を行う機会を設けている。

・夜間警備活動

年末には自主的な夜間警備を実施し、住民の防犯意識向上に努めている。

・防犯パトロールの実施

週2回の夕方、防災委員がマンション内を巡回し、安全管理を強化している。

・ボランティアの募集

学生の防災活動への参加を促し、ボランティア証明書を発行することで関心を持ってもらう取り組みを進めている。

・河川の水位監視

大和川の水位をホームページで確認できる仕組みを整え、「特定の水位を超えた場合には本部を設置する」などの具体的な対応を決定している。

■ 課題と今後の展望

防災会の取り組みにより、住民の防災意識は確実に向上し、「自分の命は自分で守る」という意識が定着しつつある。また、共助の意識も醸成されつつあり、防災活動への理解と協力が深まっている。しかし、さらなる課題として、マンション自体を防災拠点とする可能性が議論されている。

具体的には、災害情報の共有や発信、被災地域支援、ボランティア活動の推進など、より広範な地域防災活動への貢献が検討されている。しかし、現時点では具体的な取り組みには至っておらず、今後の議論が求められる状況である。

また、地域コミュニティの形成についても、世代ごとに異なる課題があり、防災活動を通じた地域のつながりを強化することが重要視されている。橋本氏は、防災活動を通じて「自助・共助・公助のバランスを意識しながら、地域全体で支え合う体制を構築することが大切である」と述べ、講演を締めくくった。



開催地より

夏祭りなど既存の自治会活動の中で、防災について考えるコーナーを設置するなど、地域の助け合いが防災につながり、特別に防災に取り組むことなく日常に防災を取り入れることなど、今後防災研修や自治会活動の取り組み方について参考となった。